

I. レビ記第16章は、罪を覆うことを描写しています:

- A) 第11章から第15章に描写されている神の民の消極的な状況のゆえに、神の観念によれば、彼の神聖なエコノミーの中で、贖いの必要があります:
- ①旧約の時代は贖いが起こる時代ではなかったもので、来たるべき贖いの予告、影が必要とされました。この影が、レビ記第16章における罪を覆うことです。
 - ②旧約で動物の犠牲を通して完成される罪を覆うことは予告であり、それは新約でキリストによって完成される贖いを指しています。
- B) 「罪を覆う」と訳されたヘブル語の語根は、「覆う」を意味します。この言葉の名詞は、レビ記第16章2節と出エジプト記第25章17節で「罪を覆う蓋」と訳されています:
- ①罪を覆う日に、罪のためのささげ物の血は至聖所の中へともたらされ、罪を覆う蓋、すなわち契約の箱の蓋の上に振りかけられました。契約の箱の蓋は、契約の箱の内側にある十戒を覆っていました。この事が表徴するのは、神に来て彼と接触する者たちの罪がすでに覆われてはいても、まだ取り除かれてはいないということです。
 - ②このようにして、墮落した人と神との関係における状況は和らげられましたが、この事は完全には解決されませんでした。ですから、キリストが来てご自身をなだめの犠牲としてささげ、人の罪を取り除くことによって贖いを完成しました。
- ヘブル9:11 しかし、キリストがすでに来て、実現しているすばらしい事柄の大祭司となられ、手で造られたのではない、すなわち、この造られた世界に属するものではない、さらに大いなる、さらに完全な幕屋を通して、12 やぎや子牛の血を通してではなく、ご自身の血を通して、一度で永遠に至聖所へと入り、永遠の贖いを獲得されたのです。
- C) レビ記第16章15節から19節は、罪を覆うことを完成することの絵を提示しています:
- ①罪を覆うことを完成するための第一段階は、民のために罪のためのささげ物のやぎをほふることでした:
 - a. やぎは罪人を表徴します。
 - b. 罪のためのささげ物のほふられたやぎは、キリストの予告です。彼は私たち罪人に代わって罪とされました。
 - ②罪を覆うことを完成するための第二段階は、やぎの血を幕の内側に持って行き、それを罪を覆う蓋の上に、また罪を覆う蓋の前に振りかけることでした:
 - a. やぎの血を、契約の箱の蓋であった罪を覆う蓋の上に、また罪を覆う蓋の前に振りかけることは、神の要求が満たされるためでした。それは神が彼に近づいてくる者と交わりを持つためでした。
 - b. 罪のためのささげ物の血を、罪を覆う蓋の上に振りかけることが表徴するのは、キリストの贖う血が天へと、神の臨在へともたらされて、私たちの贖いのために、神の御前に振りかけられ、神の義なる

要求を満たしたということです。

レビ 16:14 彼は雄牛の血を取って、それを指で、罪を覆う蓋の上の、東の面に振りかけ、また罪を覆う蓋の前で、その血を指で七たび振りかけなければならない。15 次に、アロンは民のために、罪のためのささげ物のやぎをほふって、その血を幕の内側に持って行き、…それを罪を覆う蓋の上に、また罪を覆う蓋の前に振りかけなければならない。

③その血を、全焼のささげ物の祭壇の四隅の角の上と周りに付けることが表徴するのは、キリストの血の贖いの効力が、地の四方のためであるということです。

レビ16:18 彼はエホバの御前にある祭壇に出て行って、そのために罪を覆わなければならない。彼は雄牛の血とやぎの血を取って、祭壇の四隅の角の上と周りに付けなければならない。

④その血を、祭壇の上に七たび振りかけることが表徴するのは、キリストの血の完全な効力が、罪人がそれを見て、彼の心の中で平安であるようにするためであるということです。レビ16:19 また、彼はその血を指で祭壇の上に七たび振りかけ、こうして祭壇を清めて、イスラエルの子たちの汚れからそれを聖別しなければならない。

⑤祭壇の上に振りかけられた血は罪人の平安のためでしたが、罪を覆う蓋の上に振りかけられた血は神の満足のためでした:

a. 罪を覆う蓋の上に振りかけられた血は、神が見るためでした。祭壇の上に振りかけられた血は、罪人が見るためでした。

b. 神も人もキリストの贖う血によって満足します。

D) エホバのためであるやぎは殺されましたが、アザゼルのためであるやぎは荒野に送り出されて、イスラエルの子たちのすべての罪科を自らの上に負いました:

①アザゼルは、サタン、悪魔、あの罪深い者、罪の源また起源である者を表徴します。

②キリストは、一方で神の民のためである罪のためのささげ物として神の御前で私たちの罪を対処し、もう一方で十字架の効力を通して、罪をサタンに送り返します。罪はそのサタンから人の中へと入って来ました。

③主イエスは十字架を通して、力、強さ、権威を伴う地位、資格を持っていて、贖われた者たちから罪を取り除き、それをその源であるサタンに送り返します。サタンは永遠にわたって火の池の中で罪を負います。

啓20:10 そして彼らを欺いた悪魔は、火と硫黄の池の中へと投げ込まれた。そこには獣も偽預言者もいた。彼らは昼も夜も、永遠にわたって苦しめられるのである。

II. 旧約の罪を覆うことは、新約のなだめの予告です:

Iヨハネ2:2 彼は私たちの罪のためのなだめの供え物です。しかも、私たちの罪のためだけではなく、またすべての世の人のためでもあります。

- A) **なだめは両者を和解させ、両者を一にすることです：**
①なだめは、神の義なる要求を満たすことによって、私たちと神との間の状況を和らげ、私たちを神に和解させることです。
②これは私たちと神の間の問題(私たちの罪)を解決することです。この罪は私たちを神の臨在から引き離し、神が私たちに臨むことを妨げました。
- B) 私たちは罪人として、なだめを必要としました。このなだめは、私たちと神との状況を和らげ、彼の要求を満たします：
①なだめは両者と関係があります。一方が他方に対して過ちを犯し、他方に負債を負うようになったら、他方の要求を満たすよう行動しなければなりません。
②ルカ第18章9節から14節の取税人の例証は、なだめの必要性を説明しています：
a.「取税人は離れて立ち、目を天に向けることもしないで、胸を打ちながら言った、『神よ、罪人の私に対して、なだめとなってください！』」(13節)。この事は贖い主の必要性を暗示しており、またなだめの必要性を暗示しています。
b. 取税人は自分の罪深さがいかに神を怒らせたかを認識して、罪のためのなだめの犠牲によって、自分に対して神がなだめられ、また和らげられることを求めました。それは、神が彼に対してあわれみ深くあり、また恵み深くあるためでした。
- C) キリストは私たちのために神に対してなだめをなす方です。彼はなだめの犠牲です。彼はまたなだめの場所であり、神はその場所において、彼の贖われた人々と会うことができます：
Ⅰヨハネ4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して、私たちの罪のために、御子をなだめの供え物として遣わされました。ここに愛があるのです。
ヘブル2:17 こういうわけで、彼はすべての事で、彼の兄弟たちのようにならなければなりません。それは、彼が神にかかわる事柄において、あわれみ深い、忠信な大祭司となって、民の罪のために、なだめをなすためです。
①「ヒラスコマイ」は、「なだめること」、すなわち、「和らげること」を意味します。それは、他方に対するもう一方の要求を満たすことによって、両者を和解させることを意味します：
a. キリストは十字架上で私たちのためになだめをなし、私たちを神に連れ戻しました。
b. 主イエスは私たちの罪のためになだめをなし、それによって神の義の要求を満たし、神と私たちの間の関係を和らげました。それは、神が平安のうちに私たちに對して恵み深くあるためでした。
②「ヒラスモス」は、「なだめる物」、すなわち、なだめの犠牲を意味します：
a. キリストご自身が私たちの罪のためのなだめであり、神の御前での私たちのなだめのための犠牲です。

- b.** キリストは私たちの罪のためにご自身を犠牲として神にささげました。それは、私たちの贖いのためだけでなく、また神の要求を満たすためでもあります。
ヘブル9:28 キリストも、多くの人の罪を担うために、ただ一度ささげられましたが、彼を熱心に待ち望む者たちに、二度目に、罪とは関係なく現れて、救いを与えられるのです。
③「ヒラステリオン」は、なだめがなされる場所を示しています：
a. なだめの蓋は、神が恵みの中で彼の民に語る場所としてのキリストを表徴します。
b. なだめの蓋は恵みの御座に等しく、そこにおいて私たちはあわれみを受け、また恵みを見いだします。
ヘブル4:16 ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。
c. なだめの蓋は、神と私たちの両者に必要とされます。それは証しの箱が私たちの経験と享受となるためです。
- D) 神は、十字架につけられること、復活、昇天という過程全体を通して、キリストを立てて、なだめの場所としました：
ローマ3:24 無代価で、彼の恵みにより、キリスト・イエスにある贖いを通して、義とされるからです。
25 神はこのキリスト・イエスを立てて、なだめの場所とされました。それは彼の血により、信仰を通してであって、彼の義を明らかに示すためです。すなわち、人が以前に犯した罪を、神は寛容をもって過ぎ越されましたが。
①キリストはなだめの場所の実際として、公にすべての人の前で立てられています。
②私たちは贖いの血のゆえに、今やキリストの栄光の中で、義なる神と交わりを持つことができます：
a. キリストをなだめの場所として経験する道は、彼の血により、信仰を通してです。
b. 血がなだめの蓋の上に振りかけられたので、また神の立場が血の上にあるので、神は彼の輝く栄光のただ中で私たちと会うことができます。
c. 私たちは栄光の中で神と会うときはいつでも、私たちの霊の内側深くで、自分が血によって洗われているという感覚を持ちます。これは私たちの経験におけるなだめの場所です。
③キリストは彼の昇天において、神が私たちと会うための場所、すなわち、なだめの蓋です：
a. ヘブル第4章16節において、この場所は恵みの御座と呼ばれています。恵みの御座は契約の箱の蓋です。その上に、キリストは私たちの贖いのために十字架上で流した血を振りかけました。
b. 彼の贖う血が振りかけられたことのゆえに、契約の箱の蓋は、なだめの蓋、すなわち、神が私たちと接触するための場所、また私たちが十分に彼の恵みを享受するための場所となりました。

経験①:キリストを贖いのための身代わりの死として、また、なだめの供え物として経験する

罪を覆うことを完成するための第一段階は、民のために罪のためのささげ物のやぎをほふることでした。やぎは罪人を表徴します。私たちは罪人に生まれ、内側で罪深い性質と、外側で罪深い行ないを持っており、そして罪の報酬は死です。ですから、私たちは一度死ぬことが定められています。こういうわけで、罪を覆うことを完成することにおいて、人は罪のためのささげ物のやぎを自分の身代わりとすることが要求されたのです。

罪のためのささげ物のほふられたやぎは、キリストの予告です。彼は罪の肉の様とされ、私たち罪人のための罪のためのささげ物でした。キリストが十字架上で肉体において釘づけられた時、「神は、ご自身の御子を罪の肉の様で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました」(ローマ 8:3)。キリストは肉体と成った時、肉体において私たちと一になりました。彼は罪を知らなかったのですが、私たちに代わって罪とされて神によって裁かれ、それによって神は肉において罪を罪定めされました。彼の中で、すなわち、彼の復活において彼と一になることの中で、私たちは神の義となりました。この義によって、神の敵であった私たちは、神に和解させられました。

罪を覆うことを完成するための第二段階は、やぎの血を幕の内側に持って行き、それを罪を覆う蓋の上に、また罪を覆う蓋の前に振りかけることでした。神の律法によれば、血を流すことがなければ罪の赦しはありません。ですから、やぎの血を、契約の箱の蓋であった罪を覆う蓋の上に、また罪を覆う蓋の前に振りかけることは、神の要求が満たされるためでした。それは神が彼に近づいてくる者と交わりを持つためでした。契約の箱の蓋によって、その上に振りかけられた罪を覆う血をもって、罪人の状況全体は完全に覆われました。ですから、この蓋の上で、神は彼の義なる律法を破った人々と会うことができました。人と神との間の問題が和らげられたので、神は人を赦し、人にあわれみを示すことができ、それによって人に恵みを与えることができました。

在職青年編

罪を覆うことを完成するための第一段階は、民のために罪のためのささげ物のやぎをほふることでした。これはキリストが十字架上で身代わりに死んでくださったことによって成就されました。例えて言うと、あなたが救われる前、あなたには神の御前で返済不能な莫大な負債がありました。この負債のゆえに、あなたには死が要求されていました。ところが驚いたことに、神は彼の義、聖、栄光の要求の負債からあなたを解放し、あなたを神に連れ戻すために、ご自身の御子をあなたの身代わりに十字架に付けられました。神に感謝します。

罪を覆うことを完成するための第二段階は、やぎの血を幕の内側に持って行き、それを罪を覆う蓋の上に、また罪を覆う蓋の前に振りかけることでした。やぎの血を、契約の箱の蓋であった罪を覆う蓋の上に、また罪を覆う蓋の前に振りかけることは、神の要求が満たされるためでした。それは神が彼に近づいてくる者と交わりを持つためでした。

Iヨハネ 4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して、私たちの罪のために、御子をなだめの供え物として遣わされました。ここに愛があるのです。

第二段階のなだめの供え物であるキリストは、あなたと神との間の関係をなだめます。

ヨハネ第一の手紙ライフ・スタディ #14:

第二章二節でヨハネは、御父と共なる私たちの弁護者は、また私たちの罪(sins)のためのなだめの供え物であると言っています。神の子供たちが御父を怒らせるどんな時でも、彼らの間の交わりは損なわれます。また平和はなくなり、むしろ混乱があります。その状況を認識して子供たちは彼らを赦し清めようと用意しておられる御父に告白すべきです。清める血が用意されました。そして御父自ら赦すことに信実であり、また清めることに義であられます。しかし御父と子供たちの間の平和はどのように回復され得るのでしょうか。私たちは赦しと清めがある限り、平和は自動的に来ると考えるでしょう。しかしながら、御父と私たちの間の私たちのなだめのために、やはり弁護者が必要です。それは御父がなだめられるため、そして平和が回復されるためです。

第一章で、私たちは私たちが洗う血と私たちの赦しと清めのための御父の信実と義があるのを見ます。たとえ私たちの問題が私たちの告白を通し、血の清めを通し、御父の赦しと清めを通し解決されたとしても、私たちは依然として御父と共なる弁護者として、また私たちのなだめの供え物としてのキリストを必要とします。彼は平和を作る方、私たちのために御父をなだめる方です。なだめる方として、彼は御父と子供たちを含め、あらゆる人を幸福に、また平和にさせます。直ちに私たちは交わりの享受を持ちます。

祈り:「おお主イエスよ、あなたは十字架上で私の身代わりに死なれ、私の代わりに負債を全部返済してくださいました。主の愛のみわざに感動し、主に感謝します。

それだけでなく、あなたは神と私たちの間のなだめの供え物となってくださいました。罪の問題は贖いによって解決されなければならないとはいえ、それは神のエコノミーのゴールではありません。神のエコノミーのゴールは、私たちが神との親密な交わりの中で命を得て、その命によって生き、他の人を祝福することです。このために贖いだけでなく、なだめが必要です。なだめがなければ、神と私の間に親密な交わりを持つことはできないからです。

主よ、あなたの贖いとなだめのゆえに、あなたに感謝します。神との親密な交わりの中で、私のビジネス・ライフを導き、祝福してください。アーメン！」

経験②:キリストをなだめの供え物として経験して、大胆に恵みの御座に進み出る

私たちはルカによる福音書第18章13節で、卑しめられ、訴えられ、罪定めされた取税人が、極みまでへりくだって祈ったことを見ます、「ところが、取税人は離れて立ち、目を天に向けることもしないで、胸を打ちながら言った、『神よ、罪人の私に対して、なだめとなってください!』」。この言葉は、贖い主の必要性を暗示しており、またなだめの必要性を暗示しています。

取税人は自分の罪深さがいかに神を怒らせたかを認識していました。ですから、彼は、なだめの供え物によって、自分に対して神がなだめられ、また和らげられることを求めました。それは、神が彼に対してあわれみ深くあり、また恵み深くあるためでした。

主を賛美します。キリストはなだめる方、またなだめの犠牲であるだけでなく、なだめの場所、なだめの蓋でさえあるのです。ここで神は満足され、私たちは幸いです。このなだめの蓋で、神は私たちと会い、私たちと語ることができます。ですから、契約の箱のなだめの蓋としてのキリストをもって、神と人は相互に満足する状態の下で会い、交わりを持つことができます。

ヘブル第4章16節において、この場所は恵みの御座と呼ばれています。恵みの御座は契約の箱の蓋です。その上に、キリストは私たちの贖いのために十字架上で流した血を振りかけました。

ヘブル 4:16 ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。

中高生編

あなたはここでの取税人のようにへりくだって、「神よ、罪人の私に対して、なだめとなってください！」と祈ってください。あなたは自分の罪深さのゆえに神を怒らせていることを認識すべきです。神は義なる神なので、罪をいい加減に見過ごすことは決してできませんし、罪の結果、私たちと神との間にはなだめが必要な状況です。あなたが神に行くためにはなだめの供え物としてのキリストが必要です。

「贖い主」:ローマ 3:24 無代価で、彼の恵みにより、キリスト・イエスにある贖いを通して、義とされるからです。

FT 「贖い」:贖うとは、代価を払って買い戻すことです。私たちはもともと神に属していましたが、罪のゆえに失われました。神の聖、義、栄光の要求が、私たちにとってあまりにも大きかったので、私たちがそれを満たすことは不可能でした。しかしながら、神はキリストを通して私たちのために代価を払い、大変な犠牲をもって、私たちを再び所有されました。キリストは十字架で死んで、私たちを贖ってくださいました。彼の血は私たちのために、永遠の贖いを獲得しました。

「なだめの供え物」: Iヨハネ 2:2 彼は私たちの罪のためのなだめの供え物です。しかも、私たちの罪のためだけではなく、またすべての世の人のためでもあります。

FT 「なだめの供え物」:主イエス・キリストは私たちの罪のために、ご自身を供え物として神にささげられました。それは、私たちの贖いのためだけでなく、神の要求が満たされ、私たちと神との関係がなだめられるためでもあります。ですから、彼は神の御前での私たちのなだめの供え物です。

FT 「すべての世の人のため」:主イエスは私たちの罪のためだけではなく、全世界のためのなだめの供え物です。しかしながら、このなだめの供え物は、人が主を信じることによって受け取ることが条件です。未信者たちがその効力を体験しないのは、なだめの供え物に何かの欠陥があるからではなく、ただ彼らが信じないからです。

キリストは十字架上で贖いを成就してください、私たちを神へと連れ戻してくださいました。さらにキリストはなだめの供え物でもあり、私たちと神との間をなだめてくださいます。それは私たちが大胆に神の御前に進み出て神と交わり、神を享受するためです。

祈り:「おお主イエスよ、私は両親に対する罪、先生に対する罪、クラスメイトに対する罪、兄弟姉妹に対する罪の問題があります。私は罪のゆえに人々と問題を持つだけでなく、神の前でも問題を持っており、そのゆえに神の御前に進み出ることができないのです。

私は自分の罪を告白します。主よ、私の罪を赦してください。私と神との間をなだめてください。主のなだめにより、神の御前に大胆に進み出て恵みを享受し、人々と平和で健全な関係を持つことができますように。なだめの供え物としてのキリストによって、私の学生生活が祝福されますように。アーメン！」

詩歌補 819 奉仕と福音一神へと和解させられた (ローマ第5章1-11節)

1. くらいほらあなにて、かみはおおいのぞかれ、
そこでイエスしゅつげんし、ご自身を注入された！
ちゅう入された！
(復)血によりなだめられ、あがないは完せいされ、
義とされて和かい受け、かみにへい和を持つ！
へい和を持つ！
2. アダムにて希望なし、かみは御子つかわし、
さい後のアダムは死に、われらは自由を得た、
自ゆうを得た！
3. つみ消され、ハレルヤー！めぐみ得てかん喜す。
わがうちでかみながれ、われ、いのちのなかで、
すくわーれた！

Hymns,#1131

Assurance And Joy Of Salvation – Reconciled To God.

Rom 5:1-11

1. In a low dungeon, hope we had none;
Tried to believe, but faith didn't come;
God, our sky clearing, Jesus appearing,
We by God were transfused!
We by God were transfused!
(C) Propitiation made by the blood,
Jesus' redemption bought us for God!
No condemnation, justification!
We have peace toward God!
We have peace toward God!
2. Born into Adam, dying we were;
We had a sickness no one could cure.
God, His Son sending, old Adam ending;
He is dead, we are free!
He is dead, we are free!
3. Now we're rejoicing, standing in grace,
Oh hallelujah! Sin is erased!
God, in us flowing, in our hearts growing,
We are saved in His life!
We are saved in His life!